

1 安芸地域

(1) 地域の産業を取り巻く状況

当地域は、山・川・海の恵まれた自然を活かし、古くから第一次産業を中心に栄えてきましたが、その衰退とともに人口流出が進み、9市町村合計で58,000人余りの人口は、2030年にはおよそ6割の35,000人まで減少するという非常に厳しい予測が立っています。

加えて、生産年齢人口に関しては、同年の見込み値では現在の約半数と、県内で最も減少率が高く、地域の産業の担い手不足が危惧されています。

こうした中でも比較的優位にある農業では、平野部はナスを中心とするハウス園芸地帯として、山間部は古くからのユズの産地として、それぞれ日本一の生産量を誇っています。しかしながら、農業者の系統離れなどにより産地のまとまりが失われつつあり、支え合い、教え合いの喪失や、市場への影響力の低下が大きな課題となっています。

森林率が約88%と本県の中でも比較的高い当地域では、かつては「魚梁瀬スギ」など優良な天然資源が豊富にあることを背景に、林業・木材産業が大いに栄えました。

しかしながら、天然資源の枯渇とともに川下における木材産業は衰退し、また、川上の林業は木材価格の低迷等により、非常に厳しい環境に置かれています。

一方、国際的な木材の需給の変化や、地球温暖化防止のために果たす森林の役割の重要性などから、国産材の利用についても見直されてきています。

水産業は、かつて基幹産業として栄えた遠洋まぐろ延縄漁業の衰退とともに、釣り漁業や定置網漁業などの沿岸漁業主体へと転換が図られつつあります。しかし、近年は、水揚げや魚価の低迷、燃油や漁具に要する経費の増大などで漁業所得が低迷しており、後継者不足と漁業者の高齢化が深刻化しています。

工業については、漁業用機械や酒造等の地域の特性を活かした企業が根付いていますが、海洋深層水関連産業や一部の工業団地を除いて製造業の集積といえる規模には至っていません。

また、これまで、安芸市や室戸市が当地域の商業機能の中心的役割を一定果たしてきましたが、小規模事業者が主体であり、消費者ニーズが多様化する中で、高知市など地域外への買物客の流出が進んでいます。

観光に関しては、自然、歴史、文化遺産など魅力ある観光資源があるものの、幹線道が単線であることと圏内宿泊キャパシティが小さいことから典型的な通過型観光地域となっています。地質資源や森林、清流など地域の資源をより魅力的に観光客に伝えるためには、圏域を一体とした取組が求められます。

(2) 目指すべき姿（産業振興の方向性）

山・川・海と恵まれた自然環境がもたらす産物を最大限に活かしながら、「安全・安心」や「健康」といった消費動向も踏まえたうえで、地域の産業の振興を図っていきます。

農業については、平野部のナスと山間部のユズを中心に振興を図っていきます。ナスに関しては、優良品種の導入による品質の向上及び収量の増加を図るとともに、まとまりのある産地づくりを推進します。一方、中山間地域の暮らしを支えるユズについては、生産性や品質の向上のための新植・改植や、将来に渡ってユズ園を適正に管理していくための仕組みづくりなどを進めていきます。

あわせて、園芸品目を中心に、環境保全型農業のさらなる推進に取り組んでいきます。

林業に関しては、「森の工場」づくりを推進し、事業者や担い手の育成を図ることで、素材の増産に取り組むとともに、加工においても消費者ニーズに対応した品質の向上や流通コストの低減に努め、林業・木材産業の再生に取り組めます。

また、重油の代替燃料として注目されている木質バイオマスの有効活用や、高級品として紀州産と並び称される備長炭の生産体制の強化と販売促進にも取り組んでいきます。

水産業に関しては、高級魚であるキンメダイの消費拡大と販売促進を図る一方、低価格魚の付加価値を高めるため、加工業者との連携による販売事業を展開します。戦略の検討などを進めます。

また、新たな漁業の導入など、従来の漁業からの転換を図る意欲的な漁業者を支援していくほか、豊かな海洋資源を活かしたダイビング事業など、観光分野と連携した取組も積極的に進めていきます。

商工業分野では、地域の強みである室戸海洋深層水、ユズや木材等の一次産品を活かし、この特性を企業誘致やブランド化につなげるよう、農商工連携による地域資源を活用した加工品開発や販路の拡大に取り組めます。

加えて、道の駅の情報発信機能を高めるなど、観光分野とも密接に連携した取組を進めていきます。

地域の代表的な景勝地の一つである室戸岬や歴史文化を色濃く残した町並みを誇る観光分野では、新たな観光資源である「魚梁瀬森林鉄道遺産」や「室戸ジオパーク」を磨き上げ、「モネの庭」のような新しいコンセプトの施設やに加えて、近年地域で取組が進みつつある体験型観光など、地域が有する多くの資源を有機的に結びつけ、競争力のある商品として売っていけるための仕組みづくりや、「ごめん・なはり線」を活用した取組などを進めます。

また、本県を売り出す絶好の機会であるとして期待が高まっているNHK大河ドラマ「龍馬伝」に関しては、岩崎弥太郎や中岡慎太郎を輩出した地域として、この追い風を最大限に生かし、県内の関連する地域と密接に連携して交流人口の拡大に積極的に取り組んでいきます。

こうしたさまざまな取組を通じて、若者がとどまることのできる地域を目指していきます。

(3) 重点的に取り組む施策

- 二つの日本一を有する産地機能の維持・強化
(まとまりのあるナスの産地づくり、ユズを中心とした中山間地域の農業振興)
- 環境保全型農業のさらなる推進
- 豊かな森林資源を活かす林業再生への取組
(林業再生事業(「森の工場」づくりなど)、林業加工品の販売促進など)
- 漁家所得向上への取組
(キンメダイのブランド化に向けた取組、低価格魚の付加価値を高めるための加工業者との連携、新たな漁業の導入とシラス魚価等の向上など)
- 1.5次産業化の推進
(道の駅「田野駅屋」の機能強化、特産品「イチジク」による地域の活性化など)
- 広域的に連携した観光の仕組みづくり
(体験型観光の旅行商品化と販売・受入体制の整備、地域資源を活用した加工品等の販売との密接化など)

(4) 主要な指標及び目標

項 目	実 績	目 標
ナス(土佐鷹)の作付面積	H19: 11 ha	H23: 80 ha
ユズの生産量	H16~17 平均 : 4,085 t	H22~23 平均 : 3,924 t
林業素材生産量	H18: 92,000 m ³	H23: 103,000 m ³
間伐面積	H19: 1,590 ha	H23: 2,000 ha
主要水産物の単価	H19: 345 円	H23: 362 円
深層水関連商品売上額	H19: 148 億円	H23: 155 億円
圏内主要施設訪問者数 <small>※県外観光客入込・動態調査 県調査</small>	H19: 100,000 人	H23: 130,000 人
圏内宿泊者数 <small>※県旅館ホテル生活衛生同業組合調べ</small>	H19: 127,000 人	H23: 140,000 人

(注): 「主要な指標及び目標」は、各産業分野を包括的するものなどを掲げているため、「(5) 具体的な取組」で個別に掲げている「指標及び目標」とは、一致していないものもあります。(以下、各地域とも同じ)